

オムニフローシステムの道

システム流通

【香川】システム流通(香川県坂出市)は、宮武知基社長が2002年に軽貨物運送業として立ち上げ、04年には一般貨物自動車運送事業の許可を取得した。現在は29両を保有しており、大手物流会社が主要取引先だが、「本格的にサードパーティー・ロジスティクス(3PL)に進出するためのスタッフの練習場」として、昨年6月に本社敷地に物流センターを新設。その一方で、高齢化社会に対応して08年から「こころバック」のブランドで遺品整理事業にも乗り出している。将来的に国際化に対応した幅広いサービスを考えており、宮武氏は「独自路線で強い会社を目指す」と意欲を見せる。

「社名は『組織的に仕組みをつくる』という意味合、輸送は地場の運送会社と協いから付けた。当社は輸送力し、今以上の増車を。ただに特化せず、販売協力、つもりはない」と宮武氏。などあらゆる面で荷主に関、新設した物流センターは与していく。そうすること、中2階の構造で、延べ床面で物流ニーズも取り込むこと、積860平方メートル。大手物流とができる。企業規模では、子会社の出身者をセンター

「一風変わった会社」目指す



新設したセンター

け、4月の採用に向けて準備を進めているほか、アルバイトで雇用した若いスタッフを積極的に正社員に登用。また、ベトナムの現地企業と提携して海外での労働力確保にも力を入れている。

長に迎え、食品の入出庫、保管、ピッキングなどを行っているが、既にフル稼働の状況。新設の大きな狙いはロジスティクスに精通した若いスタッフの育成で、将来は増設も視野にある。同社の特徴は社員の平均年齢が30代前半と若いことだ。宮武氏自身、1974年8月生まれの37歳だ。高校新卒者5人の採用枠を設

宮武氏は「若い人を採用するのは、10年先を見据えた戦略。大手企業は研修に力を入れているが、必ずしも行き届いていないと思えない。当社は現場できめ細かく教えていくのが基本で、人的投資は惜しまない」と話す。社長をはじめとした幹部が講習を受けるほか、若い社員を外部の研修機関に派遣し、人的投資額は「年間を通して大型トラック1両に匹敵する」という。今後はドライバーと倉庫でそれぞれ25人くらいまで増員していく方針だ。昨年は品質管理の国際規

国際化を視野、3PLにも進出

格ISO9001と環境管理のISO14001の認証を取得した。自社の枠を超えた国際的な基準が欲しかったからだ。

「TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)などにより国際化が進展する中、日本の1億3000万人と世界の60億人の常識は違う。当社としては60億人の常識



宮武社長

「生活のままにして亡くなるので、遺品整理の過程で、その人の人生が見えてしまう。生半可でできる仕事ではない。ニーズとして小ロットの遺品が多いので、1軒単位の受注のほか品目を絞ったサービスをプラスし、地方に合った形にアレンジしていきたい」という。

に立ちたい。少子高齢化が進む中、今後は運送だけでなく、海外の輸出入に関与していきたい会社を目指す。3PLは一つの手段だ。また、輸送だけのカテゴリーにとどまらず、物流を通じて足ではなく手を使う仕事をしていく。社員には「他社がしな

(江藤 和博)